

市民福祉講座 4

「未来を担う子どもたちに、私たちができること」

2015年10月31日下関市社会福祉センター

更正保護の現場から

～信じ続ければ、

子どもたちは応えてくれる～

講師 野口 義弘

(有限会社 野口石油代表取締役社長)



私の原点は熊本県田底村（現 熊本市植木町）です。中学 1 年生のとき父が肺結核で亡くなり、看病疲れか、母も高血圧で半身不随で寝たきりになり、高校進学も断念。「なんで俺だけこんな目に」と世の中を恨みました。米も買えない日もありましたが、地域の人たちがお米や野菜を持ってきてくれ、「お金はあるんか？頑張れよ」と励ましてくれました。昭和 34 年就職難のとき、地域の人のお世話で就職もでき、妻と職場結婚することもできました（奥様も保護司として活躍中）。今があるのは、暗く辛い少年時代を地域の人たちから支えられたお陰で、その「恩」を返さなければとの思いで、協力雇用主の活動に取り組んでいます。

〈参考資料「日本教育」2015 年 1,2 月連載『いま、日本は』野口義弘氏 記より〉

野口さんは、「社会貢献者表彰」（平成 23 年度）など全国表彰をされていますが、今春は「吉川英治文化賞」を受賞され、4 月 23 日、北九州市長に受賞報告をされました。この賞は、日本文化の向上に尽くしながら報われることの少ない人や団体に贈られるもので、これまでに約 220 の人や団体が受賞したということです。（朝日新聞 4 月 24 日付記事から）

・裏切られても、信じる。とても難しいことだと思います。「信じ続ければ、子ども達は応えてくれる」、分かっているにもかかわらず真似できないことです。素晴らしいご夫婦ですね。

・人を信じてやること。仮に裏切られても、再度信じてやれる人になりたい。
愛は与えっぱなし、見返りを期待しない。18歳までは立ち直れる。

・保護観察所協力雇用主事業のことを知り、野口さんの実践に心から感動しました。何度裏切られても、子どもを信じ続ける。その根拠は、「子どもは立ち直る要素を持っている」ということだと言われ、本当に教えられました。

「手にはその人の人生が刻まれる」、「この世の中で、一人でも愛を持って接する人がいれば、子どもは生きられる！」…心に銘じたいと思いました。

・何故そこまで信じられるのか聞きたくて、来ました。人は出会いによって変わる。が、そこに辿り着くまでには、更に時間と経験（事件）がある。でも、信じる側があきらめない、手放さないことが、人を変えるのだと知りました。すごい方のお話、ありがとうございました。

・非行少年を生む原因は、100%親に問題があるし、子供の居場所がないことだと言われました。
非行少年の低年齢化にも心が痛みます。

「非行歴があるから」と排除しないでほしい。人間は人との出会いで変わるので、目線を同じくして聞いたり、認めたりすることが大事だと言われました。また、勇気が要りますが、子供（少年）は恐がる大人を恐がると言われたことも心に残りました。

失敗から学ぶので、「失敗はしていいよ」と言います。成長する少年らに支援の手を差し伸べてほしい。少年らに気付いてほしいし、認めてくれると心を開いてくるのです。そして、信じ続けてほしいのです。必ず子供たちは応えてくれると言われました。実体験の言葉は心に浸みました。

協力雇用主事業所（トライアル雇用、身元保証制度など）を増やしましょう。福岡県は、野口社長の影響でしょうか、全国で協力雇用主事業所が一番多く、500社を超えているそうですが、もっと広げていくよう、啓発が必要ですね。

・我が子でも、問題のある子には手を焼くと思います。なかなか出来ることではないと、感心しました。初めは大変だったと思います。だんだんその身になってくれる人も増えてくれるのを祈っています。もう少し若ければお手伝いしたいくらいです。

いつまでもお元気で、頑張ってくださいを願っております。

・家庭環境が大事だということが、よく分かりました。

・人から愛されたことのある子どもは、必ず応えてくれる！！

